

## 香川県立ミュージアム運営協議会 令和2年度第1回会議の概要

日時 令和2年8月20日

場所 香川県立ミュージアム

議事要旨

- (1) 令和元年度事業実績について
- (2) 香川県立ミュージアム中期活動計画の取組状況について
- (3) 意見交換

委員から、次のような意見等が提起された

- 学芸員のノウハウや地域の人々の経験等をあわせて、資料調査や保存に取り組んでいるのは素晴らしい。最近では災害が多く、地域の貴重な資料が失われることが危惧されることから、国でも対策に力を入れている。香川もミュージアムが拠点となって、全国規模のネットワークで資料保存に取り組んでいけたらいいと思う。
- 多度津町では、合田邸の保存・活用に向けて動き出したところ。ミュージアムが調査を進めているのはありがたい。資金面で課題が大きいので、助成金の活用等についても教えていただきながら進めたい。
- 今年はコロナの影響で中学校の行事が全て中止になる中、ミュージアムでは未来のアーティスト育成事業を継続していただき、ありがたかった。リモートでのワークショップであったが、子どもたちは柔軟でリモートでの活動も楽しんでいた。今後も新しい形での取り組みを進めていただきたい。
- ミュージアムは、高齢者や障害のある方も安心して利用できる施設であって欲しい。引き続き、トイレの洋式化などに向けて取り組んでいただきたい。
- SNSの発信で、ミュージアムの職員が身近に感じられる。学芸講座のYouTube配信も始まり、当日参加できなくても時間に制約されず聴講できるのでありがたい。今後も継続して欲しい。
- 美術品や資料の収集について、購入予算がなくてはオークションなど急ぐ時に間に合わないのでは、購入予算が必要ではないか。また個人所有の作品・資料の情報も収集してはどうか。
- コロナ対策で難しい状況の中、展覧会を開催するための独自の方針等はあるか。
- 昨年まで瀬戸内のアートシーンは地域を超えて多くの人が交流するようなあり方が主流だったが、それらがリスクを伴うという状況になった。これからは作品と対峙して時間を気にすることなく鑑賞し、自分のことを振り返るなど、昔ながらの美術館の価値、アートと鑑賞者の関係性というものが大切になってくるように思う。
- 若い人をどう巻き込むかが課題。広報の視点で見ると、ミュージアムはいろんなネタの宝庫、そういうものを上手く使えば、いろんな人を巻き込める可能性が大いにある。SNSやネット上でミュージアムのことを発信するボランティアのグループが新しく作れたら、若い人が面白いと思ったことを発信できるようになり、突破口になるのではないかと。そういうチームができると、県民以外にも参加できる。ミュージアムに興味を持つ人が、距離は遠くても応援団になってくれ、ミュージアムの間口、客層が広がることにつながっていくと思う。
- 小学校の遠足などでの利用も発信につながっていく。SNSももっと充実させていけば、多くの人を楽しめるようになると思う。
- 令和元年度の展覧会、今年度の「白馬のゆくえ」展は、香川をテーマにしたとてもいいアイデアで、今までなかった展覧会。こういうものがとても価値があると思う。モノだけでなく、物語が重

要。モノにまつわる創造的なものを見せて欲しい。

○資料収集については、本当に必要なものは、情報提供や寄贈を呼びかけてはどうか。

○SNSについて、熱狂的なファンが必要。そういう人たちの集まり、ファンクラブのような組織ができないか。

○カードでの支払い、美術館の活動のための寄付を集めることはできないか

○昨年度の展覧会はどれも魅力的なもので、1年で終わるのはもったいないくらいのもの。展覧会の再放送のような、オンライン上で過去の展覧会を再演するというようなことができないか。昨年度の3つの展覧会について、ネット上での企画を考えて欲しい。

○限られた予算の中で工夫し、展示品の背景にある、人間の動きがストレートに伝わってくるような展示になれば、インパクトがあるものになる。観光客にもどんどん発信して、外国人にも来てもらって、さらに発信して欲しい。